

## 国外実態調査報告書

---

テーマ : ウィズコロナにおける韓国市場の実態についてのフィールドワーク  
ゼミ名 : 井上 真里ゼミ  
調査日 : 2022年8月30日(火)~9月2日(金)  
調査先 : 【韓国】ジェトロ・ソウル事務所、E-Mart Traders 他  
授業科目名 : 演習Ⅰ、演習Ⅲ  
参加学生数 : 15名(3年生)、3名(4年生)

### 調査の趣旨(目的)

- ・ウィズコロナにおける韓国経済と日系企業の現状について、ジェトロ・ソウル事務所の前川直之所長と葦澤信一郎副所長からレクチャーを受ける。
- ・新世界グループ(サムスン系)が運営する小売店舗の中でも、とくに特徴的な業態である「E-Mart Traders」を視察する。
- ・全行程のうち1日は、ゼミ生が主体となり、午前・午後の視察や昼食・夕食の予約などのさまざまな段取りを教員の手を借りずに行う。

### 調査結果

「グローバル・フィールド・スタディーズ」(GFS、海外実態調査)は演習科目に併設されている科目であるが、コロナ禍によりこれまでどのゼミも開催することができずにいた。ウィズコロナ・アフターコロナに向けて各国・地域が渡航の制限緩和を進めていることにもとまない、井上ゼミでは多少の困難(ビザ取得、PCR・抗原検査など)があってもそれらを乗り越え、まずはGFSを開催すべく努めた。渡航先は韓国であった。

8月31日の午前には、ジェトロ・ソウル事務所の前川直之所長と葦澤信一郎副所長から、ウィズコロナにおける韓国経済の動向と日系企業の現状(韓国への輸出、現地販売など)について詳細なレクチャーを受けた。コロナ禍でどの企業・機関もわれわれの受け入れに慎重な中、同事務所は快く受け入れていただき、「国境を超える企業活動に関心を持つ学生を絶やしてはならない」という強い信念を示してくださった。この場を借りて心より御礼申し上げます。

また、同日の午後には、新世界グループ(サムスン系)が運営する小売店舗の中でも、とくに特徴的な業態である「E-Mart Traders」を視察する予定であったが、前述のとおり学生1名が隔離されることにもなると、いくつかの事務手続きが必要となったため、急遽予定を変更して指導教員(井上)は宿泊先に残り、他の学生は弘大(ホンデ)の市場を視察した。

3日目(9月1日)は、複数のグループ(広蔵市場グループ、東大門市場グループ、蚕室グループ)がそれぞれに目的を持ってソウル市内を視察した。まず、広蔵市場は外国人に人気のある観光名所であり、明洞よりもはるかに賑わっていたが、彼らが外国人向けの店舗やレストランにこぞって行くかといえばそうではなく、現地の方々が普段使いするところで買い物や飲食をともに楽しんでいたのが印象的であった。来日する外国人のステレオタイプな行動様式と比較すると、この点が韓国を訪れる魅力の1つであると考えられる。また、

東大門市場は南大門市場と地理的に隣接しているが、前者は概して若者向け、後者は年配向けという形でマーケティング戦略におけるターゲットの設定に大きな違いがある。日本でも街ごとにターゲットが異なることはある（年配は巣鴨、若者は渋谷、など）ものの、方向性の異なる商圈が隣接しているのは稀有であり、興味深かった。そして、蚕室ではロッテマートにおいて各自が店員と積極的に対話を図り、本調査における趣旨の1つである「教員の手を借りずに行う」を実践した。



19時半にもかかわらず閑散とする明洞のメインストリート



明洞と比べて賑わいが戻りつつある広蔵市場